

## 第 1 回検討委員会での主な意見と対応

### 1. 多様な主体との協働による取組みについて

#### 【委員意見】

- 企業が独自で実施している活動に関する情報収集が必要。
- 学校ビオトープの設置・管理など、教育現場の動向に関する情報収集が必要。
- 未利用農地における水田体験など、農業者と教育の場との連携の現状に関する情報収集が必要。

#### 【対応】

- 事業者（商工関係者）、農業従事者、教育関係者を対象としたヒアリングを 4 月に実施予定。（議事（2）で説明）
- 市民活動についても情報収集する。
- 委員各位のご協力もいただきながら幅広いデータ収集に努めたい。

### 2. 藤沢市の課題について

#### 【委員意見】

- 「外来種問題」、「住宅地周辺の未利用地の環境をどうするか」等が考えられる。

#### 【対応】

- 課題として整理。

### 3. 地域情報の収集について

#### 【委員意見】

- 海域の変化についてはどのように考えるのか。
- 海域についての戦略における扱いについて。

#### 【対応】

- 県戦略で沿岸地域が含まれるため、「かながわの生物多様性県・市町村連絡会議」において情報収集していく。

### 4. 生物多様性の主流化について

#### 【委員意見】

- 藤沢市民でも、居住地周辺以外の地区については知らないことが多い。
- 各地区で環境条件が異なるため、市民参加の条件が異なるのではないか。
- 地域戦略の目的として、環境や生きものに関心がない市民に対して、関心を持たせることが必要。
- 市民の意向（ニーズ）を把握する必要がある。

#### 【対応】

- 地区ごとに違いを把握し、各地区に対応した戦略内容の必要性も検討する。
- 生物多様性の普及に向け、市民の意向（ニーズ）に関する調査を実施する。

(ヒアリング、グループワークの実施を予定)

## 5. 戦略のキーワード・藤沢らしさについて

### 【委員意見】

- 藤沢らしさのキーワードは、「経済」「啓発」「協働」「外来種対策」の4つになるのではないか。
- 経済的側面については、商工業、農業等にとって生物多様性保全のメリットを整理して伝え進める必要がある。  
(整理によって、活動の継続性が担保される)
- 「教育」、「子供」というキーワードについて。子供中心の活動は継続性が担保されにくい。
- 「藤沢子どもまちづくり会議」という20年続いている活動がある。  
継続性ある活動モデルとして要因を分析し、参考にしてはどうか。
- まちづくりだけでなく、外来種対策等に子どもが参加する取組みもよいのでは。
- 江の島を中心とした「観光」も重要と考える。
- 藤沢市は、観光、市民自治、市民協働に加え、全国的に見て「住宅地」としての価値も高いので、その良さを生かしたい。

### 【対応】

- 4月に実施予定のヒアリング結果も踏まえて次回会議に向けて整理する。
- 委員各位のご意見を参考に、これまでの市の取組みについても分析、整理する。
- 「観光」をキーワードに含み、課題を整理・検討する。
- 「住宅地」をキーワードに含み、課題を整理・検討する。

## 6. 戦略策定の進め方について

### 【委員意見】

- 「藤沢らしさとは何か」、「生物多様性の大事さとは何か」等について、普通の市民に伝える場合、「生物多様性」という言葉は生きもの好きだけの話と受け取られがちである。「生物多様性」も含め、地域資源の活用は「まちづくり」である。「生きものを軸にしたまちづくり」等、ソフトな名前用い、自分たちの住む藤沢を良くするということにつなげて行ってはどうか。
- 「普及啓発」というくくりではなく、意識調査等の機会を通じ「生物多様性」を理解してもらい、最後は自分の「行動」につなげて行くといった流れが重要である。その「行動」につながるための計画づくりが大事と考える。例えば中小企業の生物多様性への理解がどれくらいあり、だから何をしなければいけない、という流れがよい。
- 最後の着地点はここであるという整理を先にされると、計画に取入れなければならなかった大事な部分が抜けてしまうように思う。
- 計画策定までの間に市民が検討に関わったというプロセスを大切にすることで、子ども

たちを含む市民が参加できる「良い計画」ができると思われる。

- 藤沢市は理科教育に力を入れているが、子どもたちの自由研究の表彰時に委員長が出向き講評するなど、既存の仕組みを活用する等、市役所内の連携面でも、プロセスの見える化を図る必要がある。
- 第4の危機については、「緩和策」だけではなく「適応策」についても、戦略に書き込んでもらいたい。
- 計画を作り、取り組みが発展している事例においては、策定当初からワークショップなどを幅広く実施したところがほとんどである。

策定の過程で、地域づくりのキーパーソンが登場し、活動が継続されるからだと考える。これらを念頭に、次年度以降、計画をどのように推進するかという体制を検討、構築していければと考える。

#### 【対応】

- ご意見を参考に、策定の進め方を検討する。
- 市民意識調査を行い、プロセスを重視した策定方法を検討する。
- ご意見を参考に、今後の会議の施策検討のなかで具体化を進めていきたい。

以上